

学園聖句：「光の子らしく歩きなさい」
(エペソ人への手紙5章8節)

建学の精神 EST. 1935 (昭和10年) 創立81年

- ・キリスト教に基づく人格教育を行います。
- ・専門教科による職業教育を行い、有能な人材を育成します。
- ・自主独立の精神を養います。
- ・国際交流による国際理解教育を行います。

普通科

- 特進コース
- 普通コース
- 健康福祉コース
- 保育コース
- インターコース
- 一貫コース

看護科

- 看護科
- 看護専攻科

商業科

- 商業コース
- 美容専攻コース
- 製菓衛生師コース



新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。また、日頃より本校の教育方針にご支援ご協力いただき厚く御礼申し上げます。これからも地域と共に21世紀を担う若人の育成をモットーに、さらに教育内容を充実させていく所存です。何とぞ、今後ともより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

保育コース

幼稚園ボランティア

12月17日(土)、附属愛真幼稚園で恒例のクリスマス会があり、保育コースの有志15人がボランティアで参加しました。園児のお世話から飾りつけとこまめに動いていました。



園児のお世話をしている生徒



健康福祉コース

特別授業

12月3日(土)、点字点訳と手話の特別授業がありました。生き方のデザイン研究所会員の山口恵美子先生はじめ2名の手話通訳者と点訳・音訳ボランティア連絡協議会の鳥羽啓子先生をお迎えして1年2年それぞれに分かれて点字や手話を習いました。



商業コース

社会人講師による特別授業

12月6日(火)、豊かな経験や知識、技術を有する社会人から直接指導を受けることによりビジネスに対する意識の高揚を図ることを目的として、株式会社ザザホラヤ営業企画室の小田隼盟さん、副店長中村幸一郎さんを講師としてお招きし、「着こなしセミナー」の特別講義がありました。スーツの形やTPOに合わせた服装などの講義のあと、ネクタイの結び方の実践があり真剣に取り組んでいました。



製菓衛生師コース

アメ細工特別授業

12月3日(土)、大原医療福祉製菓専門学校でアメ細工の特別授業があり、2年生19名が実習をしました。講師のステファン・ピアンコニ先生より基礎的な知識や技術を丁寧に教えていただきました。



特別授業

12月3日(土)、福岡美容専門学校福岡校と北九州校より13名の学生によるカット、ワインディング、アップスタイリング、ネイルの実演を披露しました。生徒たちは技術の高さに驚き感動しながら見入っていました。



美容専科コース

12月7日(水)、第19回校内コンクールがありました。生徒の技術向上を目的にはじめられたコンクールは接客7大用語のクラス対抗とワインディング技術の2部門で行われました。結果は次の通りです。

- ワインディング部門(学年1位)
 1年飯田瑠夏さん、2年中野沙希さん
 3年桑野みらいさん
 オールウェーブ部門(学年1位)
 2年北田七海さん、3年岩村彩加さん



募集定員(推薦・一般) 340名【普通科 150名/看護科・看護専攻科<五年一貫> 70名/商業科 120名】

推薦入試要項

学科	コース	出願期間
普通科	特別進学 普通 健康福祉 保育 インターナショナル※ 中高一貫	平成29年 1月10日(火)～ 1月18日(水) 受付 午前9時～午後5時
	看護科・看護専攻科<五年一貫>	※日曜日・祝日は除きます。
商業科	商業 美容専科(女子) 製菓衛生師	※土曜日は午前9時～ 午後2時までとします。

※インターナショナルコースは外国人女子留学生のみ募集

一般入試要項

学科	コース	出願期間
普通科	特別進学 普通 健康福祉 保育 インターナショナル※ 中高一貫	平成29年 1月10日(火)～ 1月27日(金) 受付 午前9時～午後5時
	看護科・看護専攻科<五年一貫>	※日曜日・祝日は除きます。
商業科	商業 美容専科(女子) 製菓衛生師	※土曜日は午前9時～ 午後2時までとします。

※インターナショナルコースは外国人女子留学生のみ募集

試験日	試験科目(基礎学力)	合格発表
平成29年 1月24日(火)	国語・数学・面接 特進・看護のみ 国語・数学・英語・面接	平成29年 1月26日(木)

試験日	試験科目	合格発表
平成29年 1月31日(火)	国語・数学・社会・理科・英語	平成29年 2月6日(月)

学園クリスマス

12月21日(水)、キリストの誕生を祝う学園クリスマスがありました。中学2年生による聖劇のあと、福岡めぐみ教会牧師の入江喜久雄先生によるクリスマスメッセージ「神は私たちと共におられる」と題してお話をして頂きました。



中入江喜久雄先生(上)と
中学生による聖劇(下)



「大膳堀川開削工事に着工 ③」

工事に着工した時期は、もっとも寒さの厳しい二月の半ば近い日であったと考えられます。以後農民の希望を入れて、新曆で言えば工事は大寒前後の一ヶ月、梅雨入りの六月十日前後から一ヶ月の田植時期、十月から十一月にかけての稲作収穫期の一ヶ月は工事は休むこととして、元和九年(1623)三月まで掘り進みます。開削工事に動員された農夫は、完成後灌漑用水の恩恵を浴するであろう堀川流域の十六ヶ村から、延べ六万人の農民が動員されて工事がすすめられます。当時の十六ヶ村は中間・岩瀬・二・吉田・伊差座・立屋敷・下二・頃末・杵・古賀・猪熊・折尾・本城・御開・陣原・則松でした。大膳は現在の中間市の唐戸付近の古池と云う篤志家の家に寄宿して、開削工事の指揮をとり、総司としての大役を果たしていきます。大膳は大変な酒豪家だったそうで、藩主長政に工事中は「一日徳利一本」と厳命されていたと云う逸話が残っています。大膳が愛用した徳利は上野焼の名品だったので、今に保存されていると云われています。工事は三工区に分け、中間村の唐戸から曲川と交差する地点までの凡そ二千メートルを第一工区、岩瀬から吉田村の貴船神社と浄土真宗西本願寺派妙楽寺の中間辺りの山間を掘り進んで折尾に至るルート(現在筑豊線が走っている線路沿いの山間を折尾まで)の凡そ一千五百メートルを第二工区、折尾から本城の金山川と合流する地点までの凡そ二千メートルを第三工区として、工事に入ったのですが、着工当初は関係者はじめ農夫達の心意気もあって、順調に進んでいました。

小田弘之著書「草創期の黒田藩と栗山大膳」より